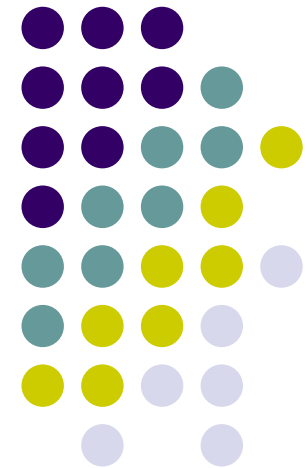


# e-ラーニングと教育システム情報学 のグランドデザイン

## 授業実践の視点から

佛教大学教授  
NPO法人学習開発研究所代表  
西之園晴夫



# 教育学部が当面する課題



- 選んだ大学と選ばれた学生 = 第一志望の入学
- 選ばず仕方なく入学した学生 = 定員充足と最終志望
  
- 教育学部の課題
  - 教育相談、福祉、臨床、カウンセリング = 心のケア
  - 多人数教育
  - 教師教育
  
- 教育技術からのアプローチ = 判断力過程

# 学習開発の2つの方向性



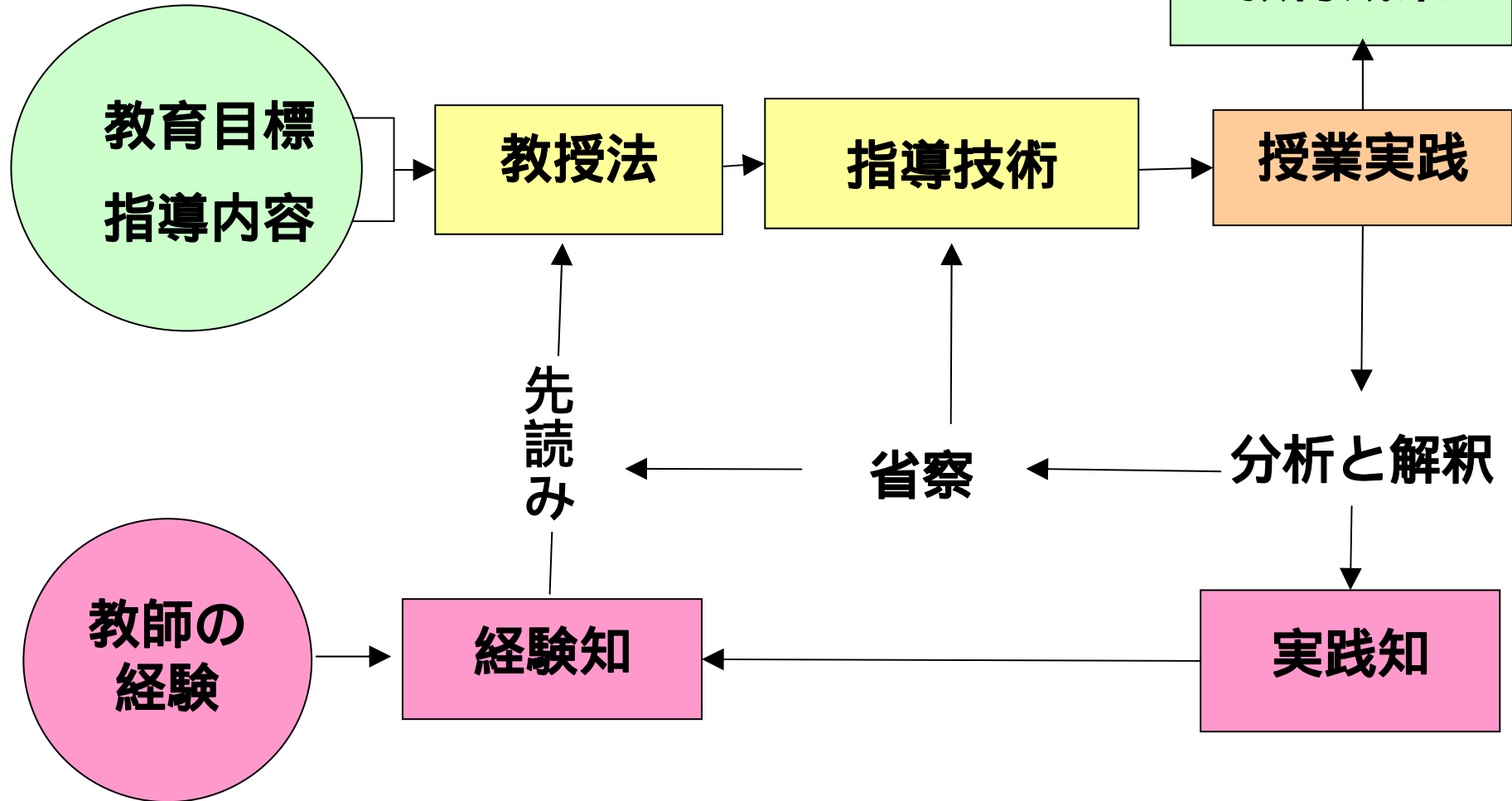
- **教育目標, 教育内容を重視した近代化路線**
  - 明治期以来の啓蒙的発想 = 近代化の推進
  - 習熟者が教え未熟者が習うという知識伝達を基本
  - 産業育成, 科学技術振興に期待
  - 目指せ学力世界一!
- **学習権と学習ニーズを重視した変動社会への対応**
  - 変動社会における生活権としての学習権の重視
  - 多様な学習者の多様化するニーズへの対応
  - 自律協調学習による生活・専門職レベルの維持
  - 社会不安の解消としての生涯学習社会の実現
  - 問題解決と知識創造, 個人の成長を支える学力
  - 教える人に過度に依存しない学習する組織

# 近代化発展モデルの教育の枠組み

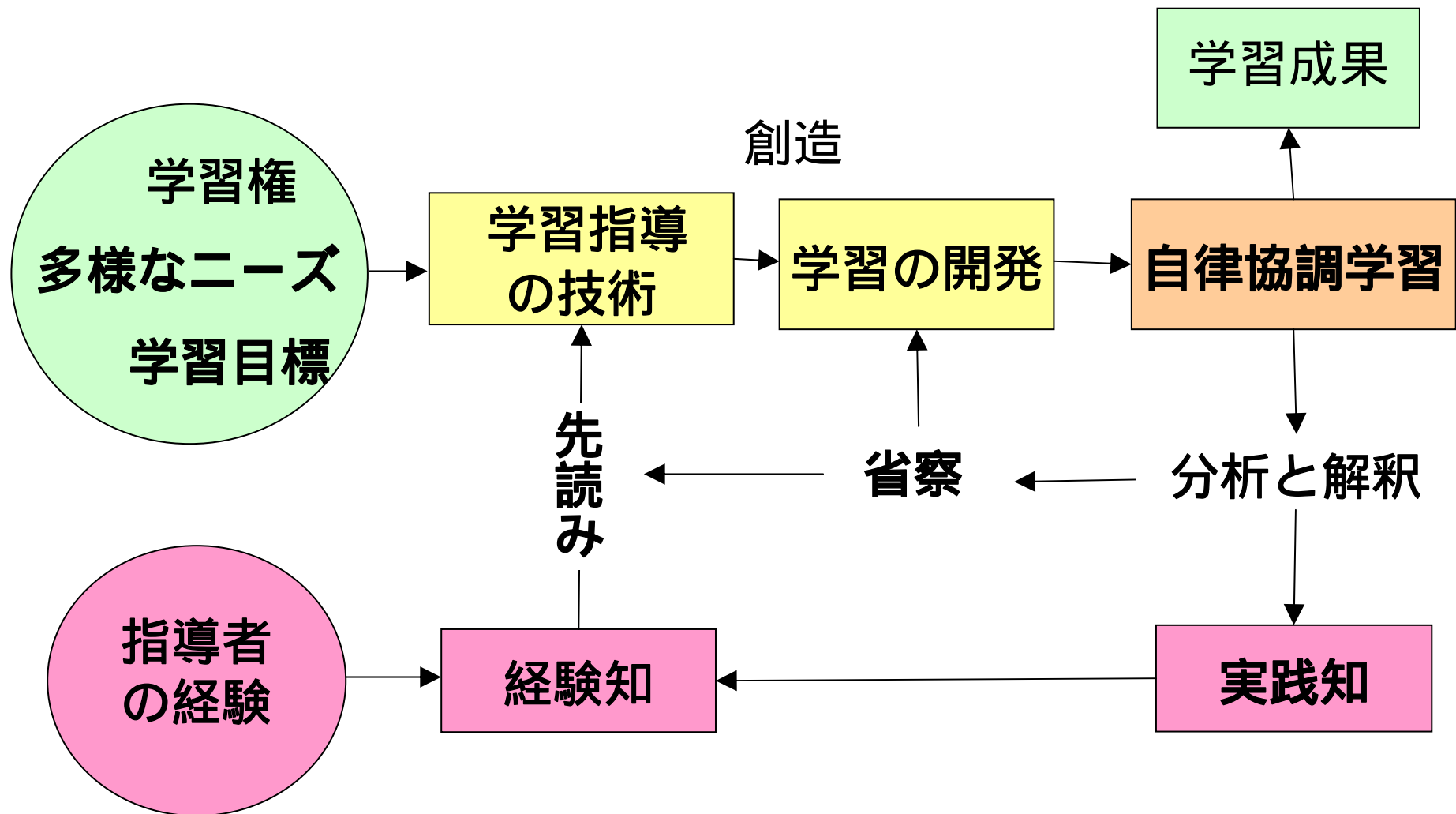
教職科目  
教科内容

## 教科「情報」の導入

教育成果



# 変動社会における学習開発の枠組み



# 学習開発の経験的アプローチ

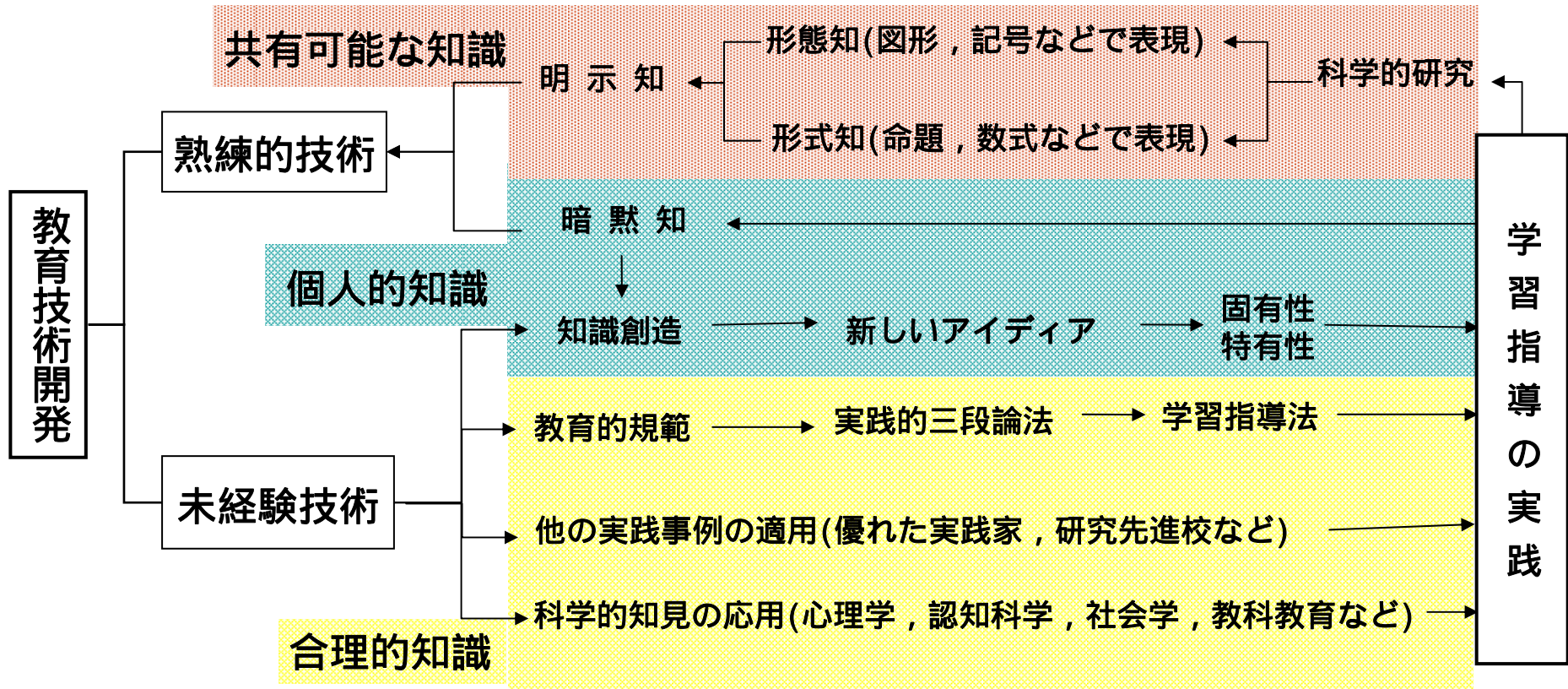


図 知識としての教育技術を研究する方法の枠組み



# 高等教育の学習開発の前提

- 従来の大学教育
  - 対面授業の重視
  - 多人数に対応する講義
  - 少人数によるゼミでの演習
- 試みている方法(個人学習から組織学習へ)
  - e-Learningの新しい形態 = 大規模な職場学習と専門職教育
  - 少人数チーム学習をネットワークで形成する多人数教育
  - 自律協調学習とチームワーク能力の育成
  - 社会的問題解決のための知識創造の組織化
  - Fully Online学習の大規模化 = 情報格差の解消



# 知識創造とわが国の現状

- ピーター・センゲらの「学習する組織(Learning organization)」のきっかけは日本の輸出攻勢
- 野中郁次郎らのグループの知識創造での活躍
- NHK番組の「プロジェクトX」にみられるモデル
- 技術に関する優れた哲学的考察, 三枝博音ら
- 教育界における経験重視の風潮
  - 経験の暗黙知を明示化する方法論の必要性
- 現場主義(On the Job)と分散学習の統合の可能性  
=暗黙知の重視



# 自律協調学習と情報共有



- **実際の問題解決の事例を教材とする**
  - プロジェクト方式による自律協調学習
- **協調学習の問題**
  - チーム学習の枠組みの理解と協働できる能力の開発
  - 共同開発のための基本理念 (Concept) または共有ビジョンが前提
  - 「学習する組織」としての共通理解 (Metaphor, Image) が前提
- **コミュニケーションの問題**
  - チャットの活用では参加者の入力スピードの格差が大きい
  - テレビ会議システムでは受講者のIT環境と時間調整が問題
  - 職場で学習する場合には対外的にファイアウォールが障害
  - 家庭ではパソコンの機種による制約がある

# 自律協調学習を目指す 多人数授業と情報共有



**授業科目：**教育方法学(2005年春期)

**受講者数：**276名で44チーム編成，11学習集団での運営

**授業時間：**金曜日3時限(12:50-14:20)

**使用教室：**大講義室(4人×4脚×30列)

図書館と学習室

**教材・教具：**印刷教材とケータイ(教室内)，

図書館，インターネット

大学のデスクトップPCと学生自前のPC

**実践目的：**知識創造型の授業，プロジェクト方式

**授業形態：**チーム学習と個人学習の統合









**他の学生は図書館や学習室で作業**





## ABC概論-

### ▼ニュース▼

12/15 13:00~第4回小  
テストを行います。  
12/22 16:00締め切り

### ▼出席▼

201で講義中  
出席します

### ■メニュー■

演習教室(4)  
小テスト(1|2)  
講義掲示板  
教材創庫  
メールDe相談室  
レポート(0|0)  
アンケート(0)  
時間割  
個人情報変更

【他の講義へ】  
【ログイン画面】



▼ニュース▼

testtest

▼メニュー▼



**演習教室**

公開中0件

演習問題の自学習と履歴を見ることができます。



**小テスト**

未解答0件 成績公開0件

小テストの受講と履歴を見ることができます。



**講義掲示板**

この講義に関する掲示板です。



**教材創庫**

この講義の電子教材を閲覧することができます。



**メール相談室**

先生へのメール相談フォームです。



**レポート**

提出可能0件 成績公開0件

レポートの提出と履歴を見ることができます。



**アンケート**

未回答0件

アンケートの回答はこちらから。



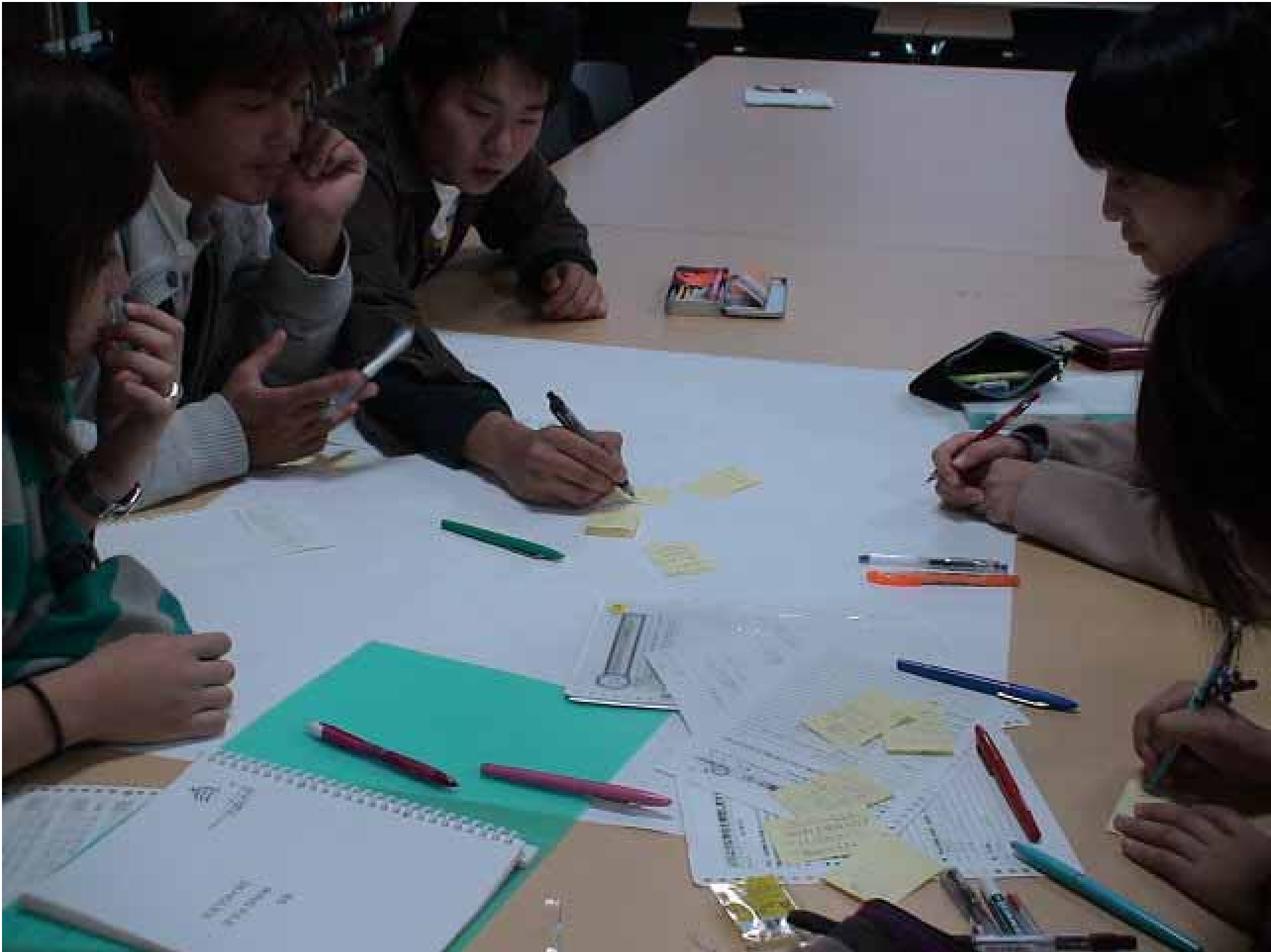
**時間割**

この講義の時間割です。















「教育方法学」の教材

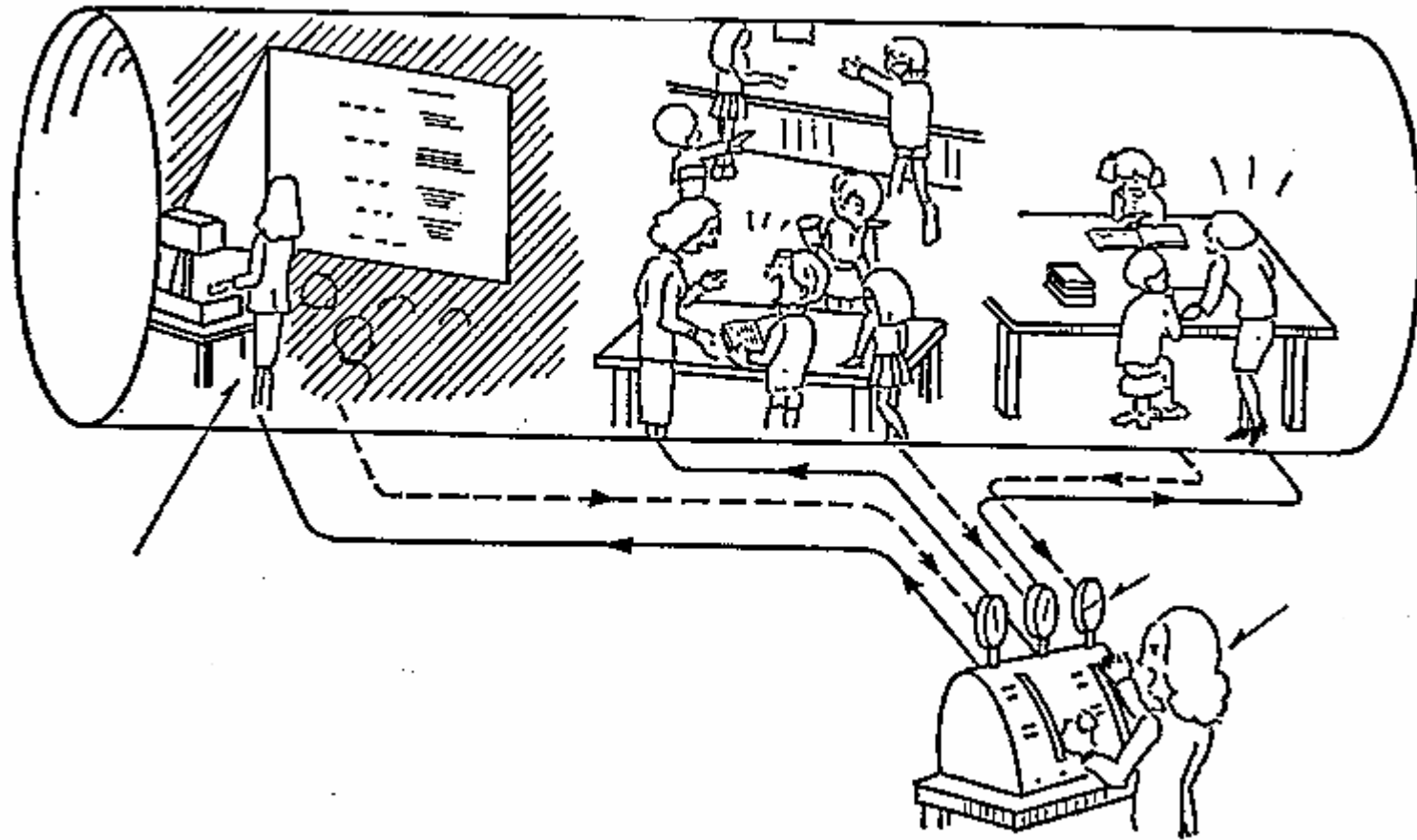
- 第1週 講座の全体を理解しよう
0. 第1週目の学習テーマ
  1. 講座のあらまし
  2. 学生モデルと授業の構成
  3. コミュニケーションタイプの調査
  4. 私のプロフィール
  5. イメージと感想の調査
- 第2週 チームメンバーを理解しよう
0. 第2週目の学習テーマ
  1. チーム分けとチームの構成
  2. 名前覚えゲーム
  3. 長所紹介と相互理解
  4. チーム学習と問題解決
  5. チームの規範を考える
  6. 教育実践力の習得
  7. 教育実践力を身につけよう
- 第3週 チームの規範を作成しよう
0. 第3週目の学習テーマ
  1. チームの規範をつくろう
  2. 授業を設計する
  3. 「初めに学校ありき」と「初めに子どもありき」
  4. 教育を見る視点を評価する
  5. 学校教育の課題(個人)
- 第4週 学校教育の課題
0. 第4週目の学習テーマ
  1. 学校は学習する組織
  2. 学校教育の課題(チーム)
  3. どのような学校を構想しますか(チーム)
- 第5週 ポスターセッションの準備をしよう
0. 第5週目の学習テーマ
  1. 発想法を知ろう
- 第6週 他のチームに構想を伝えよう
0. 第6週目の学習テーマ
  1. チーム発表の評価(チーム)
  2. チーム学習の評価(個人)

- 第7週 構想した学校とチーム学習の評価
0. 第7週目の学習テーマ
  1. 後半のチーム学習
  2. チームの機能不全診断テスト
  3. チームの規範をつくろう2(チーム)
  4. レポートの執筆
  5. チームの機能不全診断テスト結果(チーム)
- 第8週 ショートレポートから学ぼう
0. 第8週目の学習テーマ
  1. 私のレポートを評価してください
  2. 多様な学習者一人ひとりの学力を高めるために - 国語, 算数・数学
  3. 日本の子どもの学力
- 第9週 個人の学習課題を決める
0. 第9週目の学習テーマ
  1. 「『学力低下』の実態」を読む
  2. 国語, 算数・数学の学力を高めるためのさまざまな取り組みを検討する
- 第10週 第2回チーム発表の準備をしよう
0. 第10週目の学習テーマ
  1. 私のレポートを評価してください
- 第11週 他のチームと指導方法を考えよう
0. 第11週目の学習テーマ
  1. チーム発表の評価2(チーム)
  2. チーム学習の評価2(個人)
  3. チームの機能不全診断テスト結果2(チーム)
  4. 最終レポートの構成
- 第12週 学習成果を評価しよう
0. 第12週目の学習テーマ
  1. レポートチェックリスト
- 第13週 授業のまとめ
0. 第13週目の学習テーマ
  1. 情報社会における授業設計と教育技術
  2. u-学びの学習開発技術

# 自律協調学習の共同開発手法

- 基本理念(Concept): 開発における共有ビジョン  
「教育方法学」の授業を自律協調学習として開発
- 隠喩(Metaphor): なじみ易いほかの技術などを喩えとして共通理解を図る  
醸造技術に喩える
- イメージ(Image): 共通理解を図るために図式表示などで表現する
- モデル(Model): 開発のためのガイドとなる  
MACETOモデル

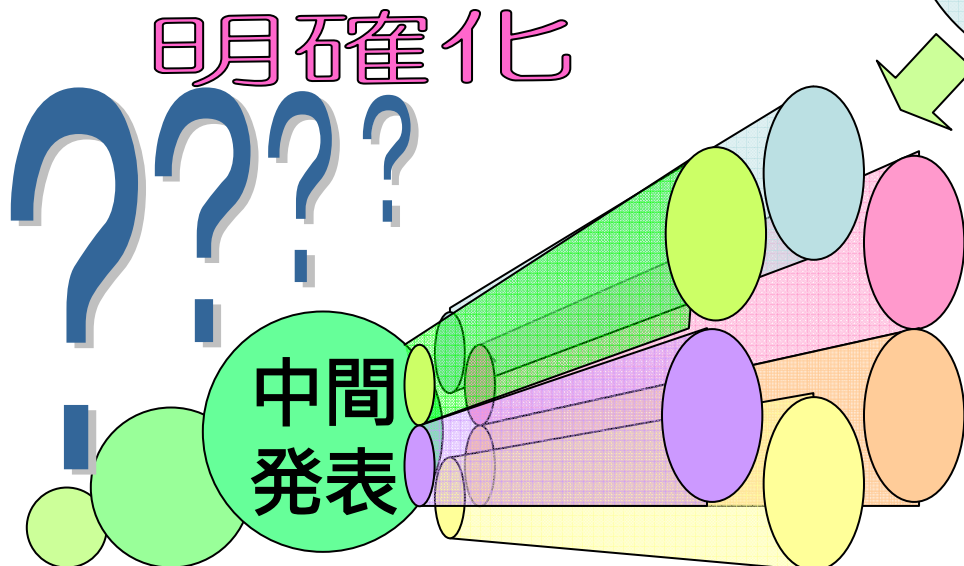
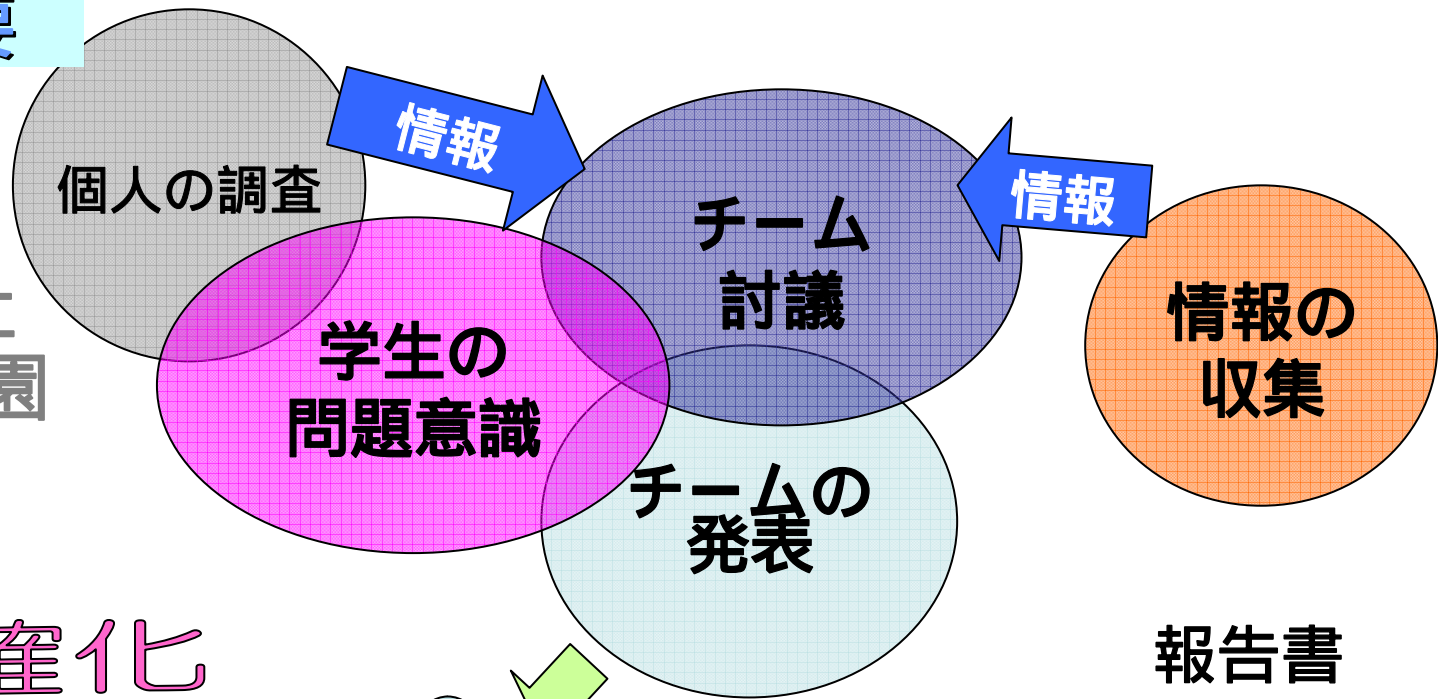
# 醸造技術を暗喩とした授業イメージ



1981年 授業の過程, 第一法規

# コースの概要

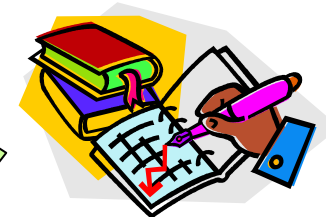
テーマ: 知識社会での学校・園の教育を創る



チーム学習 自律協調学習

創造的貢献

報告書



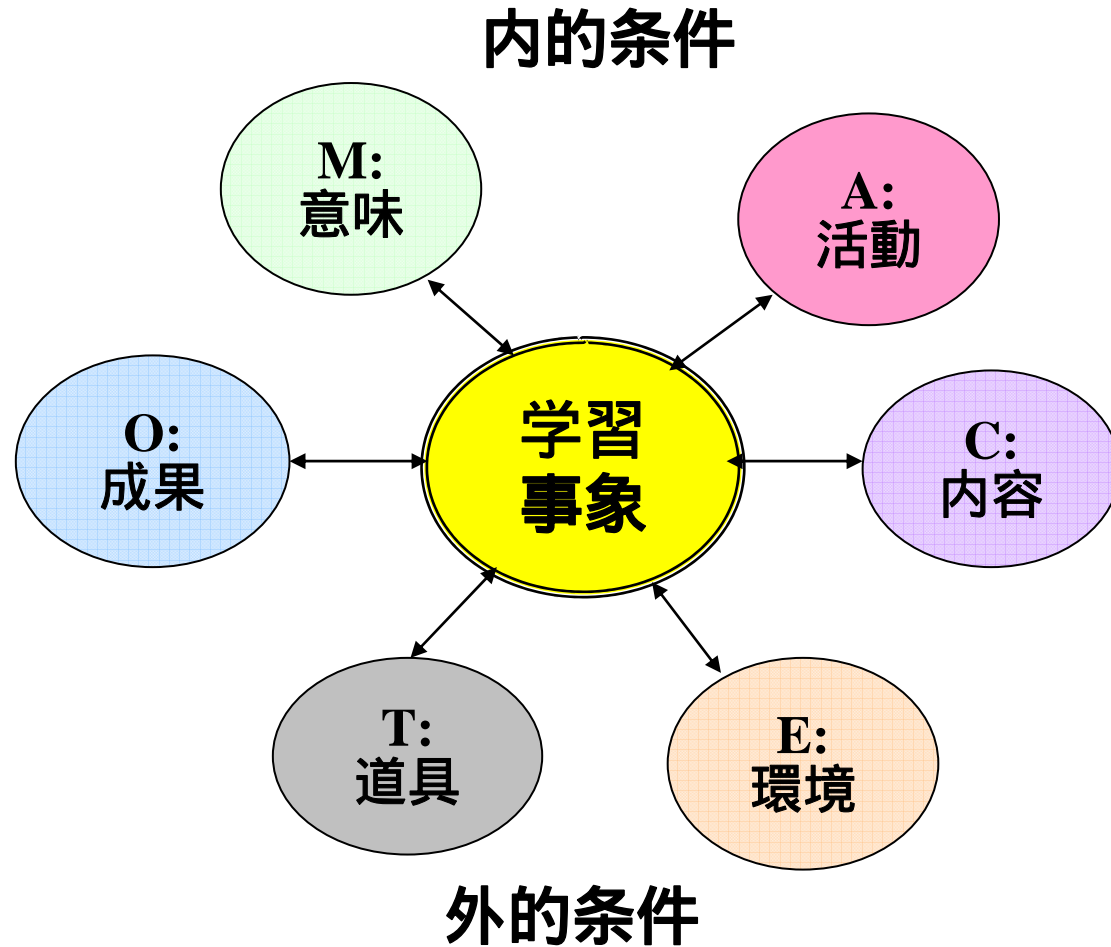
提出

単位  
修得





# 授業設計のためのMACETOモデル



仮説: 学習者の内的条件を整えることによって、外的条件が十分でない場合でも、その困難を克服して自律協調学習を実現することができる。

# グループ学習よりもチーム学習

## 司会(=チェアマン)

- ・この授業ではメンバー同士の討論で進められるので、発言しやすい雰囲気作りに努め、メンバーの発言を引き出す役割。

## 技術(=技術的な問題解決を担うインストラクター)

- ・チームの中で主にパソコン操作や心ターネットのインストラクターとなって、メンバーのつまづきを解消する。

## 記録整理(=データベースを司るご意見番)

- ・常に学習記録をとったり、「わからないと感じる点」や「意思疎通で食い違う点」のメモをとって、その解決をメンバーに呼びかけたり、話がそれたら軌道修正の必要性を指摘する。

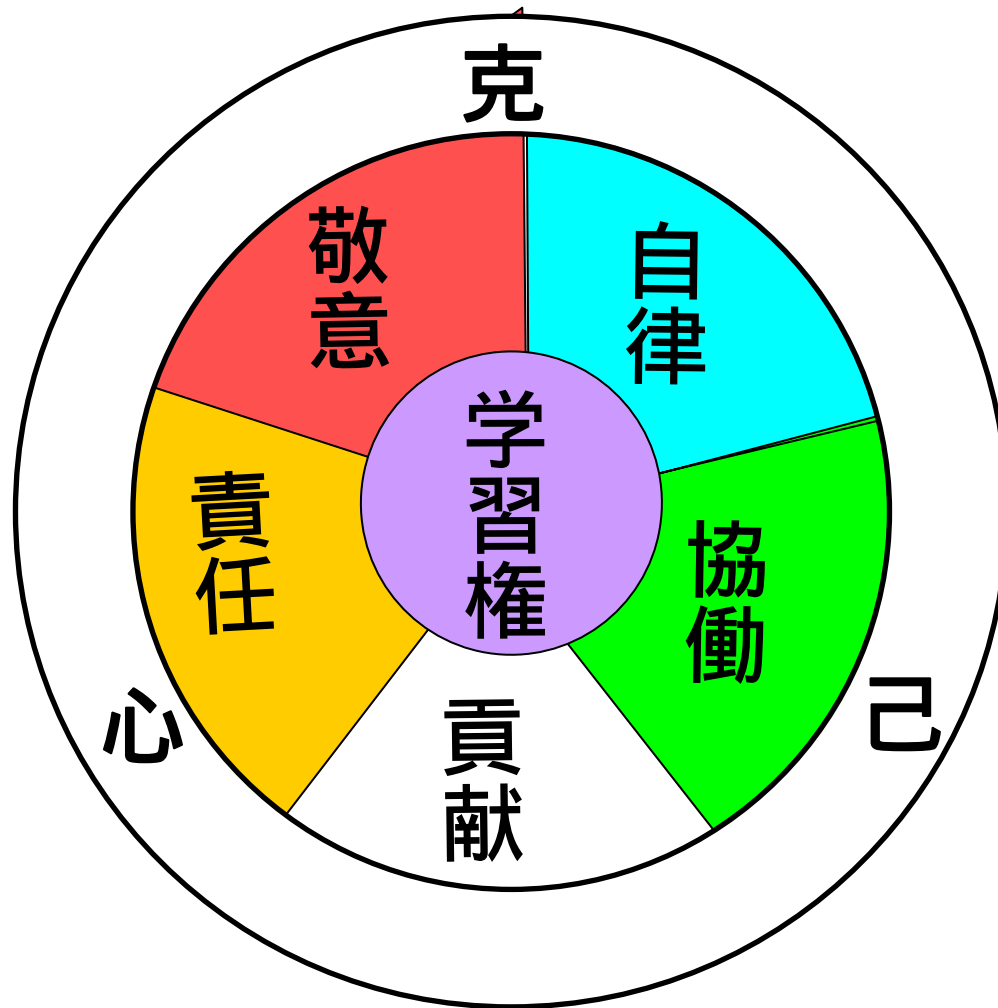
## 計画管理(=学習マネージャー)

- ・チームの作業をチームメンバーすべてが見通せるように、メンバーと相談してスケジュールを調整しながら計画書を作成する。メンバーの学習管理を担当する。

## その他(チームに必要だと感じた役割なら何でもOK)

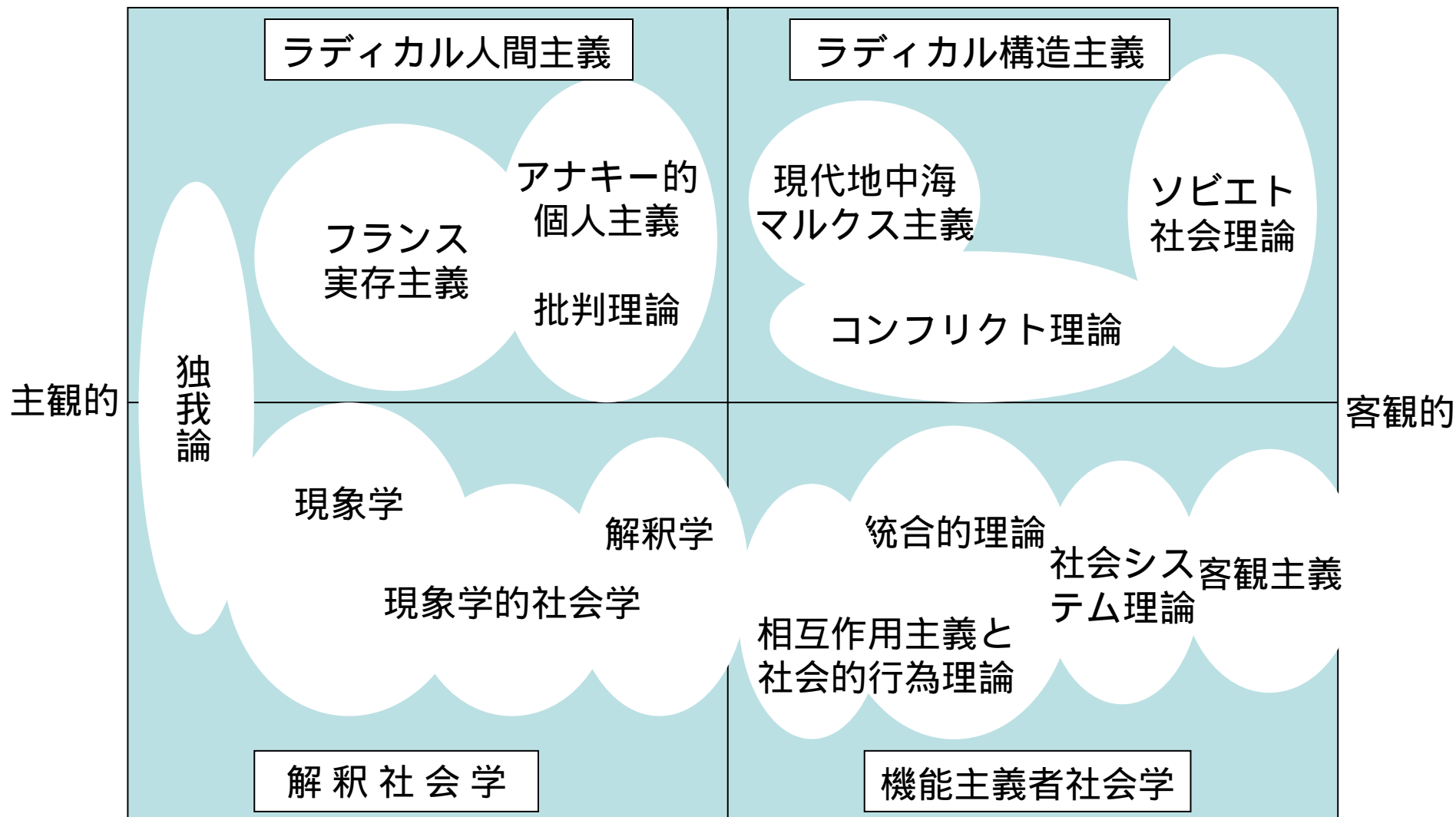
- ・チーム学習を円滑に進める上で、なくてはならないと考える役割を開発する。

# チーム学習の規範とロゴ



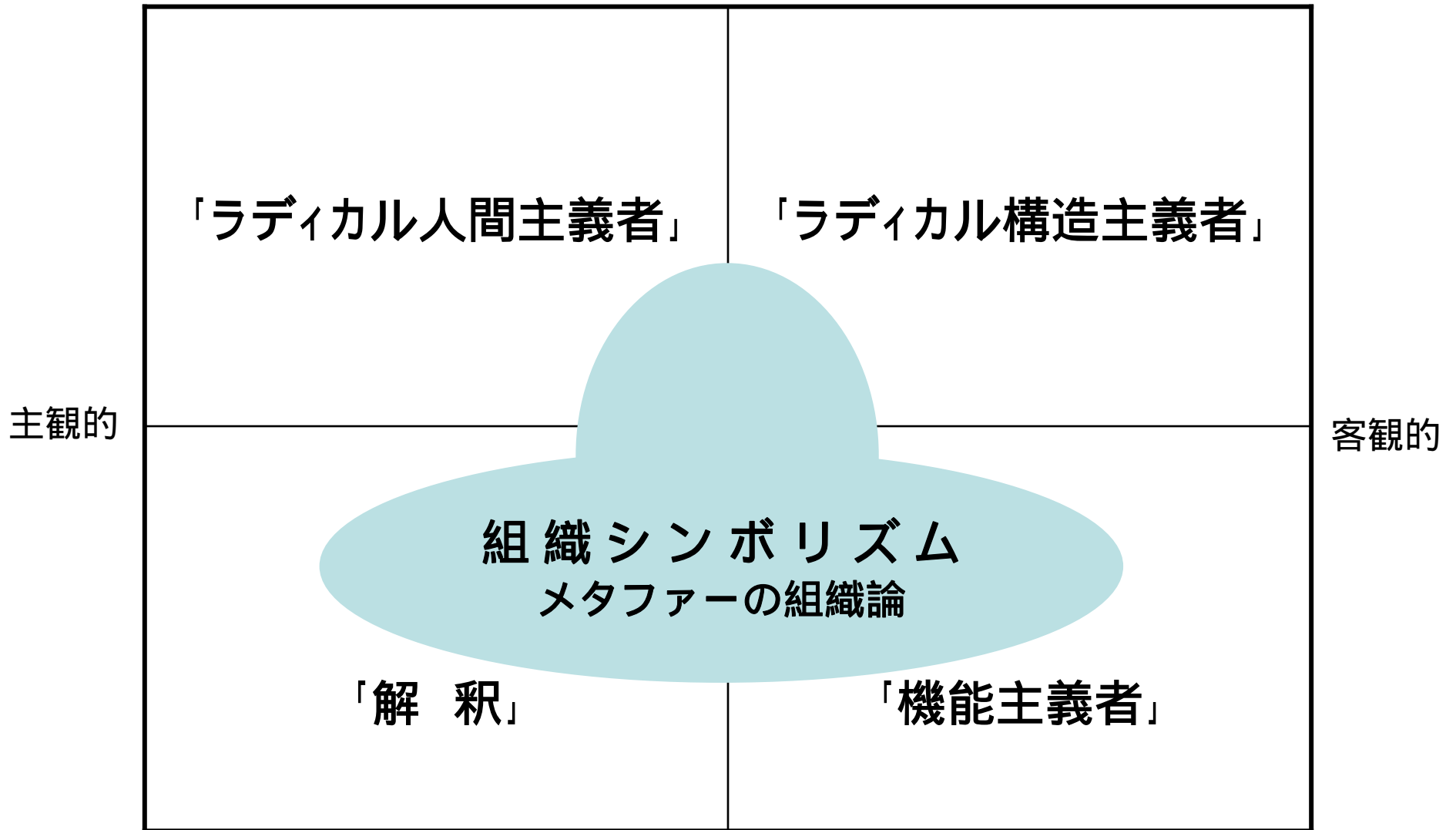
- 自律 自己責任で学習を計画、実践、管理する
- 協働 チームの課題を解決するのに参加する
- 貢献 学習は自分のためではなく人のために
- 責任 他人との関係のなかで自分の役割を学ぶ
- 敬意 自分の学びは他人に支えられている

# ラディカル・チェンジの社会学



出典：Burrell & Morgan(1979) 高橋正泰訳

ラディカル・チェンジの社会学



レギュレーションの社会学

組織シンボリズムの位置づけ

出典：高橋正泰

# 変動社会における教育



教える満足よりも  
学ぶ歓びを！